

「個別避難計画・作成通信」(2022 vol. 3 9月号)

【はじめに】

皆様、こんにちは、福祉推進課の池澤でございます。今月号も私が担当させていただきます。

まず初めに、8月3日から全国各地に及ぶ大雨による災害により、被災されました皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

8月前半の大雨では、各地で河川の氾濫や土砂災害等による甚大な被害が発生しました。被災の地域も非常に広く、北陸地方では、石川県、福井県が、また、新潟県から東北地方の福島県、山形県、秋田県、岩手県、青森県、そして、北海道まで、河川の氾濫や土砂災害による住家被害が発生しました。まだまだ、復旧には時間がかかり、大変であろうと思います。少しでも早く元の生活に戻ることができるよう、お祈り申し上げます。

一方、台風8号は、関東地方へ上陸したものの、古河市には大きな被害はなくほっとしましたね。しかし、今後9月、10月と本格的な台風シーズンに突入します。今のうちに、日ごろの防災に対する備えを改めて確認しておきたいところです。皆様方も、お年寄りや障がい者のご自宅に訪問される際には、災害対策グッズや持ち出し用品、水や食料品等の備蓄などの促しを是非ともよろしくお願い申し上げます。

また、皆様方には、8月22日開催の「居宅介護支援専門員等を対象とした防災に関する研修会」にご参加をいただきまして誠にありがとうございました。当市の防災監の石井より、地震への備えについての講話と、利根川堤防決壊時をイメージした動画の視聴をしていただきました。これらを、日ごろの避難行動要支援者に対する「個別避難計画」の作成にお役立ていただければと思っております。

さて、今回メルマガでは、「雨の強さと降り方」などをお伝えします。

【今月のコンテンツ】

1. 雨の強さと降り方と「局地的大雨」、「集中豪雨」
2. 1時間の降り始めからの累計雨量を確認しよう
3. 令和4年台風11号への警戒について
4. 8月22日の「防災に関する研修」の動画をもう一度見るには
5. 広報古河の8月号の特集で、個別避難計画の記事が掲載されました
6. 子どもの貧困・ヤングケアラーに関するアンケートへのご協力の御礼
7. その他（個別避難計画の更なる作成のお願い）

雨の強さと降り方（気象庁ホームページより引用） https://www.jma.go.jp/jma/kishou/yougo_hp/amehyo.html

雨の強さと降り方

（平成12年8月作成）、（平成14年1月一部改正）、（平成29年3月一部改正）、（平成29年9月一部改正）

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～ 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～ 30未満	強い雨	どしゃ降り				ワイパーを速くしても見づらい
30以上～ 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）
50以上～ 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる				

- (注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。
- (注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

1. 雨の強さと降り方と「局地的大雨」、「集中豪雨」

雨の強さや降り方については、「何ミリの降雨量」や「どしゃ降り」など、普段の私たちの生活では、なんとなくわかっているつもりでも、なかなかピンとこないものです。その表現と、雨の降る強さ量について、気象庁のホームページでは以上のような表でまとめています。

これを見ると、1時間の雨量が30 mm以上～50 mm未満は「激しい雨」と言われ、「バケツをひっくり返したように降る」というイメージで表現されます。屋外では、道路が川のようになり、車に乗っていると、高速走行時などは、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなります（ハイドロプレーニング現象）。場所によっては冠水が起きる可能性もあります。

この1時間の雨量が30 mm以上～50 mm未満の「激しい雨」の状態を良く覚えておいていただくと良いと思います。この雨の状態が、どれくらいの時間続くかによって、災害をもたらすような「局地的大雨」や「集中豪雨」にもなってきます。では、「局地的大雨」や「集中豪雨」とはどれくらいの時間に何ミリ降ることを言うのでしょうか。

最近では、「ゲリラ豪雨」などという表現もよく耳にするように思いますが、これはまだ正式な気象用語ではなく、一般的には「局地的大雨」や「集中豪雨」として表現されます。

「局地的大雨」は、「急に強く降り、数十分の短時間に狭い範囲に数十 mm 程度の雨量をもたらす雨」と説明され、「単独の積乱雲が発達することによって起き、大雨や洪水の注意報・警報が発表される気象状態でなくても、急な強い雨のため河川や水路等が短時間に増水する等、急激な状況変化により重大な事故を引き起こすことがある」という程度を表すものです。

また、「集中豪雨」とは、報道発表に使われる表現で、「同じような場所で数時間にわたり強く降り、100mm から数百 mm の雨量をもたらす雨」と説明され、「積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより起き、重大な土砂災害や家屋浸水等の災害を引き起こす」という程度を表すものです。

1 時間の降雨量についてmmの単位でイメージできるようになることも、洪水・土砂災害への備えの一つです。これを機に、是非、覚えていただければと思います。

詳しい気象用語集は、気象庁のホームページのつぎのURLで閲覧できます。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/kousui.html

また、雨の強さと降り方は、リーフレットでも紹介していますので、つぎのURLを参考にしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze.pdf>

2. 1時間の降り始めからの累計雨量を確認しよう

令和3年8月号のメルマガでもご紹介いたしましたが、災害につながる降雨量は、降り始めからの累計雨量を確認することも非常に重要です。復習として思い出してみましよう。

台風で避難を要するような災害が起きるかどうかの目安は、降り始めからの雨量（降水量）である程度予測できます。**利根川上流域で、降り始めから300mmを超える雨量（降水量）がある場合は、危険性が非常に高まっている**と判断していただき、すぐにも避難の備えを開始してください。

古河市のハザードマップでも紹介されていますが、利根川水系では群馬県の八斗島上流で3日間の総雨量の合計が計画規模では平均366mm、渡良瀬川水系では群馬県の高津戸上流で、同じく平均434mmの降雨がある場合、古河市に甚大な被害を及ぼす洪水の可能性があるとされています。

この降り始めからの累計雨量についても、命を守るための指標としてしっかりと意識していただければと思います。

3. 令和4年台風11号への警戒について

9月5日現在、台風11号への警戒が強まっています。9月6日（火）頃に九州地方に接近するおそれとなっています。**秋雨前線が活発化し台風から離れたところでも、局地的に1時間に50mmを超えるような非常に激しい雨の**

降る可能性もあり、道路の冠水や河川の増水・氾濫、土砂災害などに警戒が必要です。今後も最新の台風情報をこまめに確認するようにしてください。

4. 8月22日の「防災に関する研修」の動画をもう一度見るには

皆様にご参加いただきました、標記の研修では、「利根川4県境広域避難啓発動画」の視聴をしていただきました。これは、令和元年度台風19号の接近の際、利根川、渡良瀬川の合流地点の左岸（古河市側）で、堤防から越水する寸前まで氾濫危険水位が上がった際の状況を踏まえて、洪水災害の避難の在り方について啓発のため作成された動画です。

この動画は、YouTubeで、一般にも公開されていますので、今回の研修にご参加いただけなかった皆様にも、ご覧いただくことが可能となっています。事業所内での、防災研修にも、ご利用いただければと思います。ご覧いただいていない方は、ぜひとも、一度、ご視聴いただけますようお願いいたします。

動画のURLは以下のとおりです。

利根川4県境広域避難啓発動画（作成：利根川上流河川事務所）

https://youtu.be/h-_vouU2xkg

5. 広報古河の8月号の特集で、個別避難計画の記事が掲載されました

毎年、7月又は8月号で、古河市の広報紙で防災に関する特集記事を掲載しています。今年度は、以下の2つの特集記事を掲載していますので、是非とも以下のURLからご覧いただければと思います。

特集① 逃げ遅れゼロを目指して（水害における古河市の3つの特性/防災3択 QUIZ/忘れがちな水害対策/ハザードマップが確認できます！）

https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/material/files/group/1/R4_koga8M3.pdf

特集② ゲームを通して防災を学ぼう/PICK UP（向堀川の浸水想定区域図の公開について 他）

https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/material/files/group/1/R4_koga8M4.pdf

また、特集②の記事の中に、「個別避難計画」の作成について周知する記事を今回初めて掲載いたしました。記事の内容は、以下のとおりです。



介護サービス・障がい福祉 サービス利用者への個別避難 計画作成を支援します

個別避難計画とは、介護が必要な高齢者や障がい者等が、大雨や地震などの災害に備えて、いつ・どこに・どのように避難すれば良いのか、あらかじめご家族やその他の支援者等と相談・確認し、書面に記しておくものです。

介護サービスや障がい福祉サービスを利用している人は、この個別避難計画の作成を担当のケアマネジャーや相談支援専門員等が支援しています(一部実施していない事業所があります)。

作成を希望する人は、利用している事業所の担当者に問い合わせください。

作成に伴う個人の費用負担はありません。



皆様方の事業所のケアマネジャーや相談支援専門員等に、市民の皆様方から、「個別避難計画」の作成のご希望がありましたら、是非ともご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

6. 子どもの貧困・ヤングケアラーに関するアンケートへのご協力の御礼

6月号、7月号でもご案内いたしました、子どもの貧困・ヤングケアラーに関するアンケートにつきましては、大変多くの事業所の皆様方から、調査票のご返送をいただきました。また、調査票を通じて貴重なご意見等も賜り、改めまして厚く御礼申し上げます。お忙しい中のご協力、ありがとうございました。

なお、調査票の返信締め切りは、令和4年8月31日となっておりますが、まだ、数日間は調査票の返信をお受付しておりますので、ご回答、ご返信をいただいていない方がありましたら、恐れ入りますがアンケートへのご協力をお願いいたします。

このアンケートは、全国的な課題となっている、「子どもの貧困」や、「ヤン

「グケアラ」の問題について、市内での状況を把握し、そのニーズへの対策を講じていくために、保育・教育施設、学校、その他、子どもにかかわる関係機関や、各種の福祉事業所の担当者の方々を対象として実施したものです。

この後、アンケートの集計・分析の作業に入りたいと思っています。アンケートの結果まとめましたら、皆様方にも公表してまいりたいと思います。

また、現に、皆様方が知っている・支援している世帯の中に、「子どもが貧困状態にある」、「ヤングケアラ」と思われる、など、子どもが生活のしづらさを抱えて困っているような方がいれば、是非とも、福祉推進課までご一報いただけるとありがたく思います。

皆様方の「気づき」と「つなぎ」が子どもたちの未来を応援することにつながりますので、今後ともご協力のほど、是非ともよろしくお願いいたします。

7. その他（個別避難計画の更なる作成のお願い）

先日の「災害に関する研修」の際にも申し上げましたが、今年度に入り、8月までに、「個別避難計画」の作成が40件程度と作成数が非常に低調となっております。私どもも、非常に憂慮している状況でございます。

災害から、多くの市民、避難行動要支援者の皆様の命を救うためには、皆様方のご協力がどうしても必要です。皆様方の事業所の利用者の「個別避難計画」の作成につきまして、改めましてご協力をお願い申し上げます。